シリーズ 人権

みんなで考えよう。
人が人らしく生きるために…

つながっている「いのち」

尊い命が失われる・・・

人権の根源は生命の尊重です。それがなくては、人の痛みを自分の痛みのように捉える「人権感覚」が養われるはずがありません。

令和4年2月24日、ロシア軍がウクライナへ軍事攻撃を開始しました。一般市民へ向けたとしか思えない攻撃が、多くの人の命を奪っているという連日の報道に、心を痛めた人も多いのではないかと思います。報道には、かけがえのない家族や友人を失った人々の姿や声も映し出され、そこには強い憤りと深い悲しみがありありと見られました。

国同士のさまざまな要素や思惑が複雑に絡み合う戦争であることを考えると、私たちは全ての情報を鵜呑みにすることはできません。ただ、爆撃により瓦礫と化した町の中、尊い命が奪われた人々、大切な人を突然失い、途方に暮れる人々がいることは紛れもない事実です。どんな事情があるにせよ、一人に一つしかない尊い命が失われることは、あってはならないと思うのです。

日本国内ではどうでしょうか。命は本当に大切にされているのでしょうか。令和3年度、教育現場においても、事件は起こりました。大学受験当日に、高校生が見ず知らずの人や受験生を切りつけた事件です。様々な要素が複雑に絡み合って起きたことだと推察されますが、上手くいかないことを一方的に「相手のせい」にした凶行は、いかにも身勝手です。また、「相手を殺してから自分も死のうと思っていた」という供述からは、自分の命さえも軽んじる心の在り方が浮かび上がります。

地球という大きな船の乗組員である私たちです。ともに同じ今を生きる私たちが、船の中でまさに今起こっている戦争を、そして、尊い命が軽んじられるような事件を、決して見て見ぬふりはできません。

今こそ、もう一度立ち止まって、「命」について真剣に考えていく時ではないでしょうか。今回は「つながり」という視点で考えてみたいと思います。

つながっている「いのち」

命が軽んじられる一つの要因として、つながりを感じられなくなってきているということが考えられます。

私たちは、誰一人として完璧な人間ではありません。苦しいことがあれば、逃げ出したくもなります。人のせいにもしたくなります。それは誰にもある自然な心の動きです。しかし、そこで相談したり、話を聞いてくれたりする相手とのつながりがあるだけで、私たちは前向きに進むことができます。問題の解決には至らなくても、そのような「心のつながり」が私たちを救ってくれるのです。「いつでもあなたを支えるよ、でも、困ったときは助けてね」、このような言葉を掛け合える、支え、支えられる関係性の構築が、必要なのではないでしょうか。

もう一つに、「命のつながり」が挙げられます。私たちは、たくさんの奇跡の上に生を享けました。そして、家庭や地域など、つながりの中で大切にされ、つながりの中でその命は存在しています。その命が途切れるということを考えると、単なる「死」として片付けられるものでは決してありません。多くの人が嘆き、悲しむのです。あなたの命は、あなたのものであると同時に、あなただけのものではないということを、このつながりは教えてくれます。

岐阜県では、令和4年度の重点推進として、「ぎふいのちの教育」を掲げています。より深く自己を見つめ、人間としての在り方・生き方を深めていくことが目的です。これまでも、全ての教育活動の場面で「命の大切さ」について考え、啓発してきました。特に養老町では、全ての園・学校で、「よさみつけ」を実施し、家庭や地域からも声を拾い上げ、子ども達の自己有用感や自己肯定感を育ててきました。今後、学校・家庭・地域のあらゆる場面で連携を図り、命について一層啓発していくことが求められています。

人権の根源は生命の尊重です。命について、人権について、今こそ私たちひとりひとりが考え、つながりを見つめ直す時なのではないでしょうか。